



第3回 交流会

2016年4月29日(祝)交流会

今回のテーマは「小網代切り抜き紀行 午後の森を歩こう」



朝から雨模様で、駅に着いた時もまだぽつぽつ降っていました。それでも一緒に歩こうと勇んで集まった仲間と今日も不思議なコースをたどって森へ向かいます。

今回はお昼の集合です。まずは腹ごしらえの場所探しです。国道の左にある三浦市のスポーツ公園をめざしました。出発すると雨はやんで、すぐに広々とした公園に着きました。



400メートルトラックとサッカー場、野球場は子供たちのスポーツ大会でにぎやかです。観戦しながらさっそく持参のお弁当やおやつをほおぼります。手が届きそうな距離に、武山や大楠山が横たわり、広い大空のもとでゆったりとお昼をすませました。

畑のなかの農道をのんびり歩くと少しずつ標高が高くなり相模湾と江の島や東京湾をゆく船もはるかに見渡せます。

大好きな森へまっすぐ行かない。おいしいものは後から食べる。そんな感じで森へのアプローチを楽しみます。



すると、「ややや・・・?!」大きな大日如来の背中に行きあたりました。石仏をたくさんまつる妙音寺です。こっそり裏口から入って境内を散策。表の参道へと下りました。



り 走 る 列 り



その後うっそうとした谷戸道を通って三崎高校跡地の信号を渡り
やっと森の入口へ到着。

今日は午後からなので森に射す日差しの角度がいつもと違い、な
んだか不思議な感じがします。

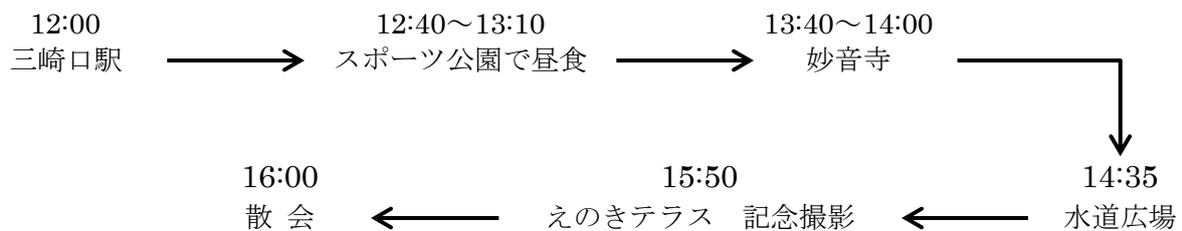


大回りして少しくたびれた足を静かな森がいたわってくれます。
「ああ森だ・・・」ゆっくり木道を歩いて、空気の匂いを嗅ぎ、カエルの鳴
き声を聞き、いつもの通り五感を広げて体を森に溶け込ませました。

(記:高橋 写真:浪本)



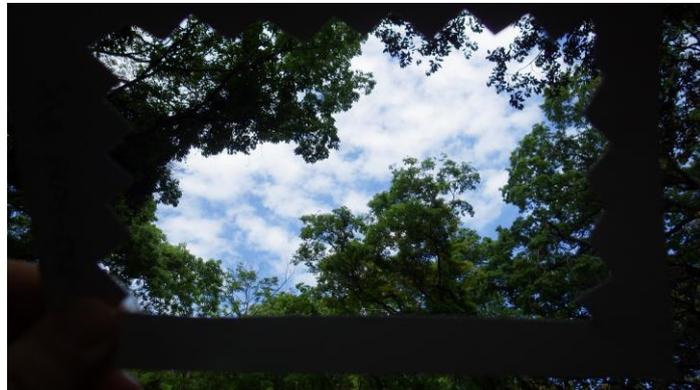
今日のコース



切り抜き紀行 切り抜きました



今日の小網代 7月 20(水) 小網代の森は満月です。速い雲の間から顔を出したり、隠れたり。
せわしく森を眺めています。木々や草の葉はそのたびに暗いかげからささやくようにきらめくのです。
じいじい...、びいじい...、すいじい...と葉陰の住民たちもおしゃべりしています。



遠くからは夏祭りのお囃子の稽古がとことこ、つくてんつくてんとこだましています。
もうすぐ梅雨明け、さあアカテガニの季節のはじまりはじまり。

三浦半島の植物

野内眞理子さんは1993年から小網代の森と干潟を守る会の会員で、スタッフとして会計を担当されていました。明るく優しく、穏やかな人柄でスタッフ皆に信頼され慕われていましたが、病のため2013年7月に逝去されました。

遺品の中から発見されたスケッチブックには、緻密さの中に見事な質感を表現された植物の姿が生き生きと描かれていました。生前に発表されることの無かった作品を、ご遺族からこあじろの森くらぶへ寄贈していただきましたので、野内さんの植物の世界に中井由実さんの詩を添えて、少しずつご紹介してまいります。



ツユクサとマルバツユクサ 2011年7月

夏
つゆ草の
すきとおる青まじりけの無い
ひっそり らす明かるく浮かびあがる
重なりあつて 空を覆う枝葉の下

8月28日(日) 13:30~
こあじろの森くらぶ 第1回総会
会場(南下浦市民センター)で、原画の展示(一部)。
同時にポストカードなどのグッズを販売する予定です。

サロン小網代

随想 小網代でんてん ②②

風まかせ波まかせーハマダイコン

須田漢一

五月初旬、イギリス海岸沿いの道やアカテガニ広場に、ハマダイコンが群れていた。赤紫色の花の上を、ハナバチ類がせわしなく飛びまわっている。

アブラナ科・ダイコンソウ属の野生種として日本にただ一種残されたこの花には、ハチのなかまはもとより、チョウのなかまもよく訪れる。冬はヒヨドリが葉を食べる。

下旬になると、花は今までの賑やかさが嘘のように消えてしまい、その陰で果実がひっそりとふくらんでいる。厚い皮につつまれた、長さ5〜6センチの数珠状じゆずじょうの果実の内部では、日に日に種子が育っている。

七月―褐色の果実は丈高い草の間に隠れて見えない。

そうしたハマダイコンの生活史を辿ると昨年こぞの十月末から十一月ころ、扇形で脈のはっきりした2枚の子葉が芽を出していた。栽培種のダイコンと違って、濃い緑の子葉は、すでに野生種の特徴をあらわしている。十二月初めの葉は瑞々し

いが、下旬になると、本葉は硬くなり、ロゼットで冬を越す。

そして今年の二月中旬、急速に新しい葉をひらいた。やがて三月下旬に花の茎が伸びはじめ、枝分かれた上部にたくさん花芽をつける。育っている場所にもよるが、個体は四月下旬から、六月上旬ころまで、だらだらと花を咲かせる。

日本全国の海岸とその周辺に分布しているハマダイコンを、三浦半島にしぼってみる、と東京湾側では、馬堀、走水、久里浜の海岸沿いにかけて散在し、南端の剣崎、西海岸の江奈湾から毘沙門あたりで、見事な群落に出合う。濃い紅紫色の花は背景の海の青にも負けない鮮やかさだ。

砂地に打ち上げられたゴミの散乱した中で咲いているものもある。ゴミなど気にしないその生き方は、優しい花の色と形からは想像できない逞しさである。

これから訪れる夏の最盛期、茎や葉はからからに枯れ、親株から離れた果実は砂の上などに散らばると、3〜4ヶ所あるくびれから折れ、断片は、風で、あちらこちらへ吹き飛び、ころがり、止まったところで芽を出す。砂地に落ちた殻のひとつを割ってみると、厚さ3ミリほどの頑丈なスポン

ジ状(コルク質)の部屋に、小さな硬い種子が入っていた。一方、海へ落ちた果実はゆらゆらとただよって、漂着地に着くと、そこで芽生える。

自らは無理に力を出さず、後は風まかせ、波まかせ、置かれた所に芽を出す。そうして二年草としての役目を終え、新たな果実を生んで、子孫の居場所を確保していく。気軽で(そう見える)強靱なその生き方は、とても真似できそうもない。

芽生えた所が住み処。あとはそこに生きるだけ……。

そんな野草すら住めなくなった海辺や内陸は……最悪だ。

2012 4 / 24 5 / 20 6 / 9

7 / 8 11 / 7 観察

2013 1 / 20 アカテガニ広場でたくさん
ロゼットを見た。



中国四川省汶川県の大地震

2008年5月12日、14時28分、中国・四川省汶川県の龍門山周辺を震源とするM8.0級の直下型巨大地震が発生した。

北京オリンピック開催まで僅か3ヶ月前のことである。強烈な大地震で遠く離れた上海、北京でも揺れが確認されたという。「地動山揺、天崩地裂、生命瞬間失去了」

中国側の資料によると死者51,151人、行方不明29,328人、重軽傷者288,431人、被災者4,550万人。重大な被害を受けた地域は、我が国の3分の1に匹敵するといわれる。2,500メートルの山地にある臥龍パンダ保護センターや、野生のパンダも多数被害を受けたと推定される。

胡錦濤国家主席、温家宝首相が直ちに現地へ飛び、直接に指揮指導をされた。後日なおも大きな余震が続き、313回を数えた。全世界各国からの資金・救援行動等を全て断り、自力再生を誓ったといわれる。

地震直前の被災地ではヒキガエルが不可思議な集団異常行動をとった。交通量の多い地上の道路上へ、沼や土中に生息するカエルたち数千、数万匹が一斉に姿を現した。私は、中国の地方版新聞紙上へ写真付で紹介されているのを読んでいる。それは大地震の不吉な前兆行動ではないかと住民達を不安に思わせたという。

四川大地震では、主に小・中学校等公共的建物の崩壊が激しかった。設計施工等建築上の問題ともいわれ名づけて「豆腐のオカラ建築」と被災地域住民達は酷評した。

なぜ、このような大災害情報の詳細を承知していたかという、私たちは僅か10日後の同月22日から山西省の五台山へ登っている。3000メートル級5つの台地状の山が連なる中国山岳仏教の聖地で、遣唐使へ同行し後に高僧となった天台宗の円仁(慈覚大師)等、我が国からの修行僧たちも来山している。

大災害直後のことでもあり自粛としたが、中国側では是非計画どおり来中してほしいというので出掛けたものである。帰り、北京では巨大な鳥の巣という愛称のあるオリンピック・メインスタジアム会場等を見学してから空港へ向かった。

祖父川精治



為四川汶川大地震遭難同胞祈願

三浦半島のイベント情報

三浦市 第36回三浦海岸納涼まつり花火大会

日時 2016年 8月9日(火) 19:30~20:15

場所 三浦海岸海水浴場

*予備日 8月10日(水)

京急三浦海岸駅、下車直前

小網代を詩う

夏の花

中井 由実

夏は花が少ないから、
その言葉を 不思議に思った

夏の小網代に 何度も足を運んだけれど
私は花が少なくて寂しいと思ったことがない
小網代の夏は

アカテガニ、ベンケイガニと
凶鑑を開くように出てくる生き物達で

いっぱいだからか

二十五年前に初めて入った森で

私を迎えてくれたのは

確かにカニ達だけではなかったはずだが

今年は

緑の間に埋もれるように咲く夏の花達に
ご無沙汰のあいさつをして歩こう



テロ

中井 由実

人々のため息がまた聞こえる

責め嘲り否定し

哀しい感情を

もつれあう電子と光の流れに送り続けるひとよ
どうあっても敵が必要なのか

私達は共にいきたいのに

同じ空の下

同じ雲を仰ぎ

同じ風に吹かれ

同じホタルを見たい

ほら

ここに光っている

こんにちはヒモミノガさん

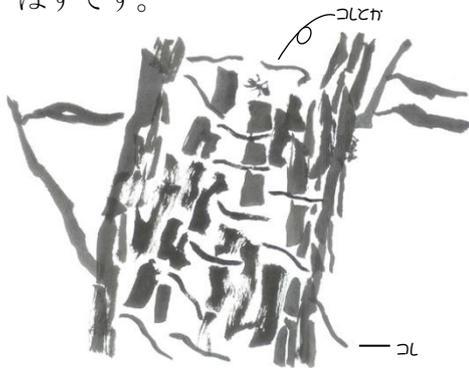
森を歩いていていつもいつも挨拶しているけど誰だかわからない。こんな不思議がたくさんあるのが小網代の森です。

でも、このたびようやくお一方の素性がわかりました。ヒモミノガさんです。

ある日の森で旗を振ってくれているのに気が付きました。なんだろうと近寄ってジッと眺めていても、ひらひらと風になびくばかりでなんだかわかりません。とくにジャヤナギにたくさんいらっしゃるようです。

たぶんみなさんも目にしていると思います。木の幹から垂れ下がる3~4センチくらいのひもです。

まだ見たことがないと言う方は、今度森に入ったらジャヤナギの幹を良く見てください。きっとすぐに見つかるはずですよ。



風が吹いていると、ヒラヒラとよく動きます。ばらばらだったり、シンクロしていたり、まるでチゴガニダンスのようです。

一本拝借してルーペで覗くと糸がからまっているので、なんかの生き物だろうなと思いながら何年もたってしまっていました。

そんな疑問をいつも話していたので、森の仲間が調べてくれたのです。ミノムシのなかまでヒモミノガというそうです。木の幹に細い穴を掘ってその中で羽化まで暮らし、穴の口に続く袋の中を移動して周りの樹皮に生えた地衣類を食べているようです。

糸をだして生活する生き物はたくさんいます。クモやカイコや水中のトビケラなど。糸はとても丈夫だそうです。絹などずいぶん人の役に立っていますね。いつか羽化のときにごあいさつしたいものです。

高橋 伸和

参考文献: 杉本美華, 2010, 木に潜るガ, ヒモミノガ(ミノガ科), 昆虫と自然, 45(14)

質問コーナー



みんなで考えよう感じよう！自分で考えよう！考えたらいっしょにこしよう！

第3回

今回は・・・ クモの巣の巻

○ 蜘蛛の巣には、表うらがあるの？

(回答は森ネーム)



しいの実

どこかの政治家みたいに表や裏はありません。べたべたとした糸はえものをとらえる目的で丸く、長い糸を出しているだけで、表裏なんて関係ない。クモよりでかいセミなんてネットにひっかかってあばれても、ハンモックのようにゆれるだけで切れることはないよ。



ぼんぼこ

「私がいる方が表です。さっき反対側にいたって？おだまり！」ってクモのケンちゃんが言ってたよ。

○ クモの巣で布(服)はできる？ (森ネーム: のぶ)

なんと！スパイバーという鶴岡市の会社がバイオ技術を使ってクモの糸を人工的に作成することに成功しました！すでに試作品もあり夢の繊維としてLED以来の発明といわれています！強さは鋼鉄の5倍、軽くしなやかで美しい！
引用サイト：事業構想 プロジェクト日本山形県
<http://www.projectdesign.jp/201411/pn-yamagata/001713.php>

ふわら



ふわら

○ クモが人間サイズだったら、糸の太さはどれくらい？

そもそも体のどこからどこまでを比較するの？ (森の酸っぱいダーマン)

クモの糸といってもいろんな種類があって、なんともいえないけど、足を除いたサイズで人間と比較すると、タコ糸ぐらいかな？(おおざっぱ)ものすごく丈夫で強く、伸縮性もあるので獲物をとらえるには充分ですね。



ふわら

○ 糸を食べちゃうってホント？おなか一杯にならないの？別腹？（森のクッキーモンスター）

糸はタンパク質なのでいらなくなったら食べちゃうそうです。すぐに糸をたくさん作るのでおなか一杯にならないんじゃないかなあ。網糸に特殊なマーキングをしてニワオニグモに食べさせ、何分後に新しい網として再利用されるかを調べた研究では、わずか30分後に、もとの網の80~90%が再利用されていたそうです。クモってお菓子の家に住んでるってこと?!
引用元サイト：クモの糸とその性質 池田博明・新海明（『クモの巣と網の不思議』第2部）
<http://homepage3.nifty.com/~hispider/spiderwebbook/ikedah/spiderthread.html>



ふわら

参考図書：「クモの網」What a wonderful Web! 船曳和代・新海明著/LIXIL BOOKLET 刊
参考サイト：日本蜘蛛学会 <http://www.arachnology.jp/>

調べてみたら面白い！ さらにイマジネーションが広がり、世界へ、宇宙へ……。

朝日がうつくしい
今の季節は5時前に朝日が昇る
朝露にかざられた蜘蛛の巣がゆれている。
きらきらかがやく蜘蛛の網はまるで宝石のように美しい。

でも、ふつう私たちは「蜘蛛の巣」にいくらかマイナスイメージをもつ。
蜘蛛の巣がはる、といえば、打ち捨てられたものの描写で、あの、閑古鳥とおなじような使い方をされる。

ところが英語圏のひとたちは違うようだ。
シェイクスピアの「夏の夜の夢」は駆け落ちした恋人たちが妖精の王と女王の夫婦喧嘩にまきこまれ、惚れ薬の使い方間違いで大騒ぎになるお話だが、ここに登場する妖精の女王は豆の花や辛子種の妖精とともにクモの妖精 (cobweb) をつれている。

ハドソンの「緑の館」は、深い森に住む美しい少女リーマの物語。リーマは小鳥のさえずりのような言葉を話し、目にもとまらぬ速さで森を飛び回ることができる。まるで妖精のようなリーマは、クモの糸で作ったグレーの薄く虹色にかがやくドレスを着ている。

トールキンの「指輪物語」には複数の人間以外の種族が出てくるが、エルフという永遠の命をもつ人間より一段上の種族が主人公一行に与えた「エルフのマント」がある。薄くて軽く暑さも寒さもふせぎ、さらに敵の目からまったく姿を消すわけではないが、目立たなくしてくれる。このエルフのマントはクモの糸で織られたものだったに違いない。
まるでこの世のものとは思えない「はごろも」のようなものを作り出すのがクモの糸だったのだろう。

今、新しいクモの糸が私たちに豊かにしてくれている。
WWW (World Wide Web) 世界にひろがるクモの糸。インターネット。
この全く新しい手段を開発した人たちはこれをクモの網にたとえて、Web (ウェブ) と命名した。
世界中のできごとはもちろん、個人のお知らせも Web ページ (ホームページ) で瞬時に知ることができるし、自分でも発信できる。
まるで宇宙船のパイロットのように地球のすべての地域の地形を見ることができるし、鳥になって飛んでいるように詳細な地図を俯瞰することもできる。
私たちは少し前ならば神々のものであった手段を手にいれたのだ！
この全世界を瞬時につなぐ画期的な手段にもっともふさわしい名前が Web (クモの糸/網) だった。

文：ふわら
写真：松下景太

おもしろ Q&A の Q も A もひきつづき、募集しています！！

投稿先 eメールで：watashitachino@mori-club.com

ファクスで：03-3774-9704（ファクス専用機です。24時間受信可能）

総会や交流会でスタッフへ手渡しで

（企画：森くらぶスタッフ 進行：会員のみなさま）

こあじろ あ・ら・か・る・と

森を巡る逸話を不定期で 宮本美織 記

小網代湾の青を背景に手前にカワセミが…いつかスタッフの浪本さんが通信に描いた図柄が丁寧に縫われてタペストリーに変身！これは富山県の会員、盛野雅子さんの作品、素晴らしい出来具合の作品です。宮本も浪本さんの許可を得て、コーヒーカップの窓絵に使わせて貰ったのですが、人様に見ていただけるような作品にはできませんでした。「森くらぶ」らしい森からの文化発信ですね。嬉しいので、4月29日の交流会にもって行きました。富山名物のお菓子も頂き、目にも舌にもご馳走様の日でした。



浪本さんの原画



盛野さんのタペストリー



錫でできた蟹、水盤に花と一緒に
おいておくと水が腐らないそうだ。
花水幸という商品名、これも盛野さん
から戴いた。



花山曼荼羅 飯森山妙音寺コース

4月29日、以前はみどりの日として、親しまれ、20数年、この日は森を訪ねる日として、自分の中で定着しています。

今年は私と同じようにいつも森に来ていた会員のJさんはお母さんのみの参加、家でお父さんと留守番だそうです。ちょっと残念でした。昨年はいっしょにサザエさんのテーマソングを歌いながら森の外周を歩いたのに……。今年はその建設には長い時間とお金をかけ、完成は知ってはいたものの一回も行ったことの無い潮風スポーツ公園(三浦スポーツ公園)から小網代の森へというコース。

案内役の伸さんの後ろについて行く。広々としたグリーンサッカーコートが1面、野球コートが1面、観客席やそれを回るランニングコース、脱衣所、南側から北には武山丘陵から大楠山も良く見えます。

豪華なお八つの出た昼食後、134号の県道にはでなくて、畑の中の道をだだだ登ります。普段見たことのない光景におしゃべりしているうちに、先頭の伸さんが見えませぬ。どうも、おおきなUピンカーブを曲がって下り道を行っているみたい。

鎖をまたぐと 何と大きな石の大日如来が鎮座していた。山百合の寺で有名な飯森山妙音寺に入り込んでしまっていたのだ。山頂から下に仏像が並んでいる。下を覗いていたら、ガビチョウがさっと横切った。祖父川さんがその幸運を嬉しそうに話す。中国では実に珍重される鳥なのだそうだ。樹木葬の墓地で和尚さんが作業中。何と伸さんは檀家なので、勿論、お咎めなし。どうも私達は不法侵入で防犯カメラには収まっているに違いない。

お寺の奥様と同級生の方も参加者の中において、ラッキー。ここのお寺のPRを少しだけ。ご本尊は不空羂索ふくうけんさく観音像。丑と午の年の4月18日から一ヶ月、三浦七福神巡りのご開帳があり、数年前の午の年、華麗なお姿を拝観する機会があった。50種3200本の花木、174の石仏もあるそうだ。自分が初めて妙音寺を尋ねた時、四国八十八箇所のご詠歌と本尊を描いた半切の軸の前に座布団がおいてあり順ぐりに巡礼をしたことにする発想に驚愕したものだ。そう、例えば小網代の森の引き橋上部でも同じように四国八十八箇所の観音巡りということができた施設が30年以上も前にはあった。遠くからでもお堂のようなものも見えた。森中を巡るパトロールでも道がくねくねと続き、石仏をおいてあったような跡があったのを確認している。今ではお寺前の駐車場の隣に立派な御砂ふみ巡礼ができるようになってきている。正月の七福神巡りでは福祿寿をまつるので、大型の巡礼バスも発着できるようになっている。今も昔も現世または未来の利益を求める私たちなのだ……。

今日の小網代 6月15日(水) 知り合いの方と一緒に森に行きました。丁度、山百合が咲き、ハンゲショウも見ごろを迎えていました。干潟は潮が上げてきていましたが、チゴガニ、コメツキガニが見られました。

今日の小網代

「ホタルに会いに行ってきました！」

(2016年は5月27日から6月12日までの期間、開場時間が18時から21時に延長、宮前入口～やなぎテラスで観察可。)

5月31日(火) 参加者5名

16:30に三崎口駅に集合して、引橋までバスで移動。この時間に森に入ること自体がわくわくです。テイカカズラのタワー、立派なアカテガニの登場、クサヨシの揺れる湿原に歓声をあげつつ、えのきテラスに到着。まだ通行禁止になる18:00まで時間があつたため、干潟のチゴガニに挨拶に行ったところ、ハマボスが満開、昨年より少し増えたようで嬉しくなりました。

ホタル(ゲンジボタル)はたくさん出ていて、見応えがありました。昨年あたりに刈り開かれたばかりの、見通しのよくなったヤシャブシの谷にも出ていたのが、感動でした。やはり暗くなって19:30ごろから見ごろです。アシ原にはヘイケボタルもちらほら出現していました。

まだ気温が低いのか、蚊はあまりいませんでしたが、浜辺は風があり、意外と冷えますので、上着を用意したほうがよいかと思いました。(この日は特に低かったのかもかもしれません。)

ずっと観ていたいところでしたが、20:00ごろに引き上げ、20:38シーボニア入口のバスに乗って帰りました。それがちょうどよいようです。



6月6日(月) 参加者3名

2回目のホタルを観てきました。パトロール隊の方の話によると、前日は100頭ほどしか出ず、今年はもう終わりかも、とのことで、あまり期待していなかったのですが、暗くなってから徐々に増え、特に帰りがけの北の谷、ヤシャブシの谷が見事でした。

ホタルもいいですが、ホタルが出る前の、えのきテラスでまったりと緑や空をながめ、日の暮れゆく空気を味わう時間がいいいですね。少し大げさに言えば、宇宙と地球と悠久の時の流れを感じます。

ところで、今日の気付き！散策路脇に優しい緑をひろげているフキの葉っぱ。あらあら、穴だらけ。レースのよう。誰の仕業？と思ってよく見たら、ちっちゃいフキバッタがあちこちにいるではありませんか。フキバッタって、「^{ふきばった}露飛蝗」だったんですね！



来年もまたお誘いしたいと思います。H.N.

興味を持って歩いてもらい、楽しんでもらいました。まだ、行ったことが無くて行きたがっている人は大勢いるような気がします。

N・K

こあじろの森くらぶ NEWS

◆スタッフの活動

- 04.17(日) 10:00～ スタッフ会議(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
午後 通信 No.2 印刷・発送
- 04.29(祝) 第3回交流会 午後の森を歩こう「こあじろ切り抜き紀行」
- 05.08(日) スタッフ会議に向けてミーティング 10:00～(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 06.12(日) スタッフ会議に向けてミーティング 10:00～(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 06.26(日) 10:00～ スタッフ会議(於横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 07.10(日) 10:00～ スタッフ会議(於横須賀市立 市民活動サポートセンター)

◆第1回こあじろの森くらぶ総会のお知らせ

日時:2016年8月28日(日) 13:30～14:00

会場:南下浦市民センター 2階講義室

守る会から大きく舵をきって、こあじろの森くらぶ初めての総会です。どのように変わってきたか、これからどう変わっていくのか、会員の皆さまとご一緒に確かめて行きたいと思っております。是非ご参加ください。

- * 会場にて、野内眞理子さん(故人)の植物画の一部を、三浦半島に咲く野草を中心に展示いたします。ポストカードなどグッズの販売も予定しております。
- * お天気が良ければ、総会終了後森を散策したいと思います。

◆こあじろの森くらぶ会員更新のお願い

小網代の森くらぶが発足して、早いもので一年を迎えます。

皆さまに支えられ、感謝の中スタッフ一同活動中です。

奇跡の森は皆様の心の森です。

交流会や通信を通して皆様と繋がれる様に、今後共よろしくお願ひ申し上げます。

年会費 1000円 (7月～6月 入会金不要)

郵便振替 記号番号 00290-6-137203

加入者名 こあじろの森くらぶ

◆次回交流会

次回交流会は10月23日(日)を予定しています。

企画は次号通信で

こあじろの森くらぶ通信 No.3

2016年7月24日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地:〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com

年会費: 1000円 (7月～6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203